

美しいから愛するのではなく 愛するから美しくなる。

相手の欠点を指摘したり非難したりせず、考え方の違いを受け入れ相手を認める。これは“愛する”と言い換えられるでしょう。“愛する”とは不思議なものです。いつしか欠点が見えなくなり、相手が素晴らしく見え、尊敬できる人に思えて、しかも美しく見えてきます。スポーツや勉強の指導でも欠点を指摘するよりも、長所をほめていると欠点は目につかなくなり才能が伸びると言われます。美しいから愛するのではなく愛するから美しくなる、美しくなるからより愛する、というように愛が増幅するのです。



やがて二人は霊界で再会して 永遠に共に暮らすことができます。

本物の愛を地上世界で育てることができたなら、死によって二人に別れが訪れたとしても、やがて霊界で再会して永遠に共に暮らす夫婦であり続けるのです。

キリスト教では、結婚式のとき「死が二人を別つまで……」と、愛を誓います。しかし、愛し合った夫婦を死が別つたとしても、それは一時的なものにすぎません。

死は決して、二人を別つことはありません。二人は永遠に愛し続け、ともに一つになることができます。

妻としてあなたを信じることに決めた

吉澤文男さん（群馬県）

厳かな祝福結婚式を終え、ホテルの部屋に戻ったとき、妻への感謝の思いが込み上げてきました。……朝早くに家を出て夜遅くに帰宅する。会社が休みの日にも一日中家を空ける。会社を辞めて教会活動に専念したいと突然言い出す私…。「あなたが私利私欲のためではない何かを、必死で成し遂げようとしていることだけは痛いほどわかった。だから妻としてあなたを信じることに決めた」と。ただただ妻は私を信じて耐えてくれたのです。

「ありがとう。よくついてきてくれたなあ」……そう声を掛けると、妻の目から大粒の涙がいくつもこぼれ落ちました。



四六判 68 ページ
定価 210 円（税込）賢仁舎刊